

## 上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（特別研究・一般研究）

研究代表者 所属・職名 学校教育学系 教授

氏 名 安藤 知子

研究期間 平成29年度～平成30年度

研究プロジェクトの名称	グローバルな教師教育課題と地域の教育ニーズを共に反映させる大学—地方教育行政のコミュニケーション・チャンネル構築に関する研究—教員育成協議会の基盤となる連携システムへ向けた一試論—
研究プロジェクトの概要	<p>本研究では、将来的に教員育成協議会へと展開するような、教師教育のための幅広いコミュニケーション・チャンネルの構築を上越・妙高・糸魚川3市（教育委員会）との連携により検討する。その際、教育界に閉ざされた議論とせず、グローバル化が進む国際社会でも教育専門性を発揮しうる教員の養成を積極的に展開していくために、国際教師教育学会(ISfTE)2018年大会(2018年5月13日～18日)招致を契機として、多様なアクター間の協議および交流によるニーズ理解の場の創設を試みる。</p> <p>1年目には、ネットワークの開拓・拡大を目的として、公式、非公式に多様な人々との対話の機会を多く設定し、協議の場の構築可能性を模索した。2年目にはネットワークを可視化する機会として国際教師教育学会を活用し、多様な立場からネットワークに参加した人々に、教師教育への関与意識について発言してもらい、意見交流の場を広く発信することを試みた。</p>
<b>研究成果の概要</b>  ※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。	<p>地域とともにある学校を担うこれからの教師には、多様なローカルニーズを理解し、それらと柔軟に向き合いながら教育実践の本質を外さずにカリキュラムをマネジメントしていく力量が求められる。しかし、それだけではなく社会のグローバル化をも当然のものとして、広い視野を持ちながら、これからの時代を生きる子どもを育てるという時間軸も必要である。そのような教師の養成を考えたときに、本学が持つべき教師教育の理念として、「教師教育の国際化と地域化の邂逅を目指す」というモデルの具体的な形を提示することができた。</p> <p>公的な教員育成協議会を創設し、肩書のある人々が一堂に会したとしても、内実のある連携協議が成立するとは限らない。実際には、フォーマルな制度枠組みの構築とともに、相互作用システム、すなわちインフォーマルな人と人とのやり取りとしての豊かなコミュニケーションが生まれる回路の構築が同時進行することが決定的に重要である。本研究での試みは、まさにこの点での内実としてのコミュニケーションを生み出し、チャンネルをつないでいくという実質的なコミュニケーション・チャンネル構築の重要性を確認するものであった。</p>
研究成果の発表状況	今回の研究プロジェクト報告書を日本語版と英語版の2言語で作成し、インターネット上で公開する予定である。
学校現場や授業への研究成果の還元について	今回国際教師教育学会を契機として開かれた多様で多元的なコミュニケーション・チャンネルを、今後も柔軟に維持し、拡大発展させていくことが実践的・研究的課題である。